

教科名	国語	週時間数	4 時間	学年	2 年
使用教科書 副教材等	教科書 「現代の国語2」三省堂/「新しい書写」東京書籍 副教材 「国語スイッチ2」正進社/「国語便覧」浜島書店 「新しい文法ワーク」明治図書				

国語科 の目標	<ul style="list-style-type: none"> 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができる。 論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合うことができる。
------------	--

評価について

観点	つけたい力	方法
知識・技能	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。	<ul style="list-style-type: none"> ノート、授業プリントの記述 授業中の発言、様子 国語カードの記述 (授業・単元のふりかえり) 定期テストや漢字テスト等
思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	<ul style="list-style-type: none"> ノート、授業プリントの記述 授業中の発言、様子 国語カードの記述 (授業・単元のふりかえり) 定期テストや漢字テスト等
取り組む態度	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値を認識しようとしているとともに、読書を生活に役立て、言葉を適切に使おうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ノート、授業プリントの記述 授業中の発言、様子 国語カードの記述 (授業・単元のふりかえり) 提出物
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> 言葉での表現の仕方、語彙による意味の微妙な違いなどに着目し、教科書やプリントなどの内容を理解し、使えるようになろう。 積極的に自分から考え、仲間の意見をよく聞き、考えを深めることを心がけよう。 便覧や機器による資料を収集し、伝え学び合おう。 仲間に尋ねるなど丁寧に関わり、互いに学びあう関係を大切にしよう。 配布されたプリント等を整理し、その都度ノートに貼り、復習につとめよう。 漢字は漢字テストの機会に何度も書いて練習し、文法の重要事項を覚え、資料で調べ、知識を定着させよう。 宿題は出された日にやっておく習慣をつけよう。 教科書を何度も読み、ワークを使いながら、基本となる重点ポイントを理解しよう。 読書や日記などに普段から取り組み、読み書きに親しもう。 	

学期	月	単元	学習内容	主な学習のめあて
1	4	詩	名づけられた葉	・リズムを感じ取りながら繰り返し音読して、詩に込められた思いを捉える。
	5	小説	セミロングホームルーム	・人物の設定の仕方を捉え、表現や構成の工夫とその効果について考える。
	5	言葉発見① 話す・聞く	敬語の意味と種類 グループディスカッション	・敬語のはたらきについて理解し使う。 ・互いの立場や考えを尊重しながら話し合いを深めるための方法を理解し、活用する。
	6	説明	人間は他の星に住むことができるのか	・文章の構成や論理の展開の仕方を捉える。
	6	書く	手紙・メール	・主張と例示との関係に着目して読み、内容を理解する。 ・相手に伝えたい事柄や気持ちを明確にして、手紙の形式をふまえて書く。
	6	言葉発見②	言葉のはたらきとコミュニケーション	・言葉には、相手の行動を促すはたらきがあることに気づく。
	6	解説	短歌の世界	・短歌のリズムや表現方法などの特徴をもとに、短歌についての理解を深める。
	7	短歌 書く	短歌十首	・情景や心情を表す語句に注意して、短歌を読み味わう。
	7	文法の窓① 報告	短歌・俳句 用言の活用	・情景や感動が伝わるように、表現を工夫して書く。 ・用言の活用について理解する。
	7	私の読者体験	壁に残された伝言 生涯の友と出会う	・文章の全体と部分との関係に着目して読み、内容を理解する。 ・文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりする。 ・本には様々な立場や考え方方が書かれていることを知り、読書を通して自分の考えを広げたり深めたりする。
2	9	評論 言葉発見③ 話す・聞く 古文 表現プラザ	100年後の水を守る 上位語・下位語 プレゼンテーション 枕草子・徒然草 私の「枕草子」「徒然草」	・文章と図表などを結び付けて、筆者の考えを捉える。 ・上位語・下位語の関係について理解を深める。 ・自然や人間に対する、筆者のものの見方や感じ方を捉える。 ・古人の心情を現代の自分たちとの対比の中で読み取る。 ・日常生活や社会生活の中から題材を決めて、伝えたいことを明確にする。
	10	古文 漢文	平家物語 漢詩の世界 漢詩の形式	・語句の意味に注意しながら音読し、古典のリズムを味わう。 ・漢詩の表現やリズムを捉え、読みを味わう。 ・漢詩に描かれた情景を捉え、古人の心情を想像する。
	10	漢字のしくみ① 【情報】	熟語の構成・熟字訓 複数の情報を関連付けて考えをまとめる	・熟語の構成・熟字訓について理解を深める。 ・意見と根拠などの関係に注意して、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い考えをまとめる。
	11	図表 解説	共生社会に関するデータ 自立とは「依存先を増やすこと」	・文章を読んで理解したことを知識や経験と結び付け自分の考えを広げたり深めたりする。
	11	書く 文法の窓② 詩	投稿文 助詞・助動詞のはたらき 大阿蘇	・多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする。 ・自分の意見と根拠を明確にして、説得力のある文章を書く。 ・助詞・助動詞のはたらきや文の構成について理解する。 ・詩の表現技法とその効果を理解し、詩に描かれた情景を読み取る。
	12	言葉発見④ 小説 読書活動	類義語・対義語、多義語 小さな手袋 ビブリオバトル	・類義語・対義語、多義語について理解する。 ・登場人物の人物像と相互関係を捉える。 ・本には様々な立場や考え方方が書かれていることを知り、読書を通して自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かす。
	12	書く	創作文	・自分の立場や考えが明確になるように根拠の適切さ論理の展開などに注意して、話の構成を工夫する。
3	1	評論	動物園でできること	・動物園に関する筆者の主張について、知識や経験と結び付けて自分の考えを深める。
	2	漢字のしくみ② 書く	熟語の読み 論説文	・熟語の読みについて理解を深める。 ・伝えたい事柄がわかりやすく伝わるように、文章の構成や展開を工夫して書く。
	3	小説 話す・聞く・書く	走れメロス 情報誌	・人物の言動の意味を考え、人物像とその変化を捉える。 ・集めた材料を整理し、伝える内容を検討するために編集会議を開き、話し合って考えをまとめる。

教科名	数学	週時間数	3時間	学年	2年
使用教科書 副教材等	教科書 未来へひろがる数学2（啓林館） 副教材 数学の学習ノート 2年（正進社） 新・計算の基礎練習帳（創育・吉野教育図書）				

数学科の目標	評価について		
	観点	つけたい力	方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・文字を用いた式と連立方程式、平面図形と数学的な推論、一次関数、データの分布と確率などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。 ・事象を数理化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート、計算練習のノート、授業プリントの記述 ・授業中の発言、問題演習の様子 ・授業や単元のふりかえり ・定期テスト、小テスト 	
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・文字を用いて数量の関係や法則などを考察する力、数学的な推論の過程に着目し、図形の性質や関係を論理的に考察し、表現する力、関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、複数の集団のデータの分布に着目し、その傾向を比較して読み取り批判的に考察して判断したり、不確定な事象の起こりやすさについて考察したりする力を身に付けています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート、計算練習のノート、授業プリントの記述 ・授業中の発言、問題演習の様子 ・授業や単元のふりかえり ・定期テスト、小テスト 	
学習に主体的に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたり、多様な考えを認め、よりよく問題解決しようとしたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート、計算練習のノート、授業プリントの記述 ・授業中の発言、問題演習の様子 ・授業や単元のふりかえり ・定期テスト、小テスト ・宿題、ワークなどの提出物 	
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ・最も大切なことは、授業に集中し、先生の話をしっかりと聞くこと。授業中、分からなかった問題は質問し、できるだけ早く理解し、解決しておく。 ・授業中の問題演習に挑戦し、答え合わせの時には積極的に挙手して発表できるとよい。発表の時には、根拠やそうなる理由をしっかりと述べることが大切である。解き方だけを求めるのではなく、なぜそうなるのかを考えることで数学が楽しくなり、理解が深まる。 ・その日に学習した内容や問題を家庭で復習する。まずはノートにまとめた用語や公式を押さえる。そして、学校で使用しているワークを使い、学校で学習したところの問題を解く。解き方が分からぬ場合は、教科書や授業のノート、ワークの解答・解説で確認する。それでも分からぬ場合は、友達や教師に質問し、理解できるまで学習を進める。これらの学習を繰り返し行う。 ・学校で使用しているワークの問題が理解できるようになったら、新たな問題集にもチャレンジする。 		

学期	月	単元	学習内容	主な学習のめあて
1	4	オリエンテーション		
	5	1章 式の計算	1. 式の計算 2. 文字式の利用	・整式の加法と減法及び単項式の乗法と除法の計算をることができる。 ・文字を用いた式で数量及び数量の関係を捉え、説明することができる。 ・指示された文字について等式変形することができる。
	6	2章 連立方程式	1. 連立方程式 2. 連立方程式の利用	・二元一次方程式とその解の意味を理解する。 ・連立方程式の必要性と意味及びその解の意味を理解する。 ・連立方程式を解くことができる。 ・連立方程式を具体的な場面で活用することができる。
	7	3章 一次関数	1. 一次関数とグラフ	・一次関数について理解する。 ・一次関数として捉えられる2つの数量について、変化や対応の特徴を見いだし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し、表現することができる。
	9		2. 一次関数と方程式 3. 一次関数の利用	・二元一次方程式を関数を表す式とみることができる。 ・一次関数を用いて具体的な事象を捉え、考察し、表現することができる。
	10	4章 図形の調べ方	1. 平行と合同 2. 証明	・平行線や角の性質を理解する。 ・多角形の角について性質を見いだすことができる。 ・平面図形の合同の意味及び三角形の合同条件について理解し、三角形の合同の証明を完成することができる。
	11		1. 三角形 2. 四角形	・三角形の合同条件などを基にして、三角形や平行四辺形の基本的な性質を論理的に確かめたり、証明を読んで新たな性質を見いだすことができる。 ・三角形や平行四辺形の基本的な性質などを具体的な場面で活用することができる。
2	12	5章 図形の性質と証明		
	1	6章 場合の数と確率	1. 場合の数と確率	・多数回の試行によって得られる確率と関連付けて、場合の数を基にして得られる確率の必要性と意味を理解する。 ・同様に確からしいことに着目し、確率を求め、不確定な事象を捉え、考察し、表現することができる。
	2			
3	3	7章 箱ひげ図とデータの活用	1. 箱ひげ図	・四分位範囲や箱ひげ図の必要性と意味を理解する。 ・データを整理し、箱ひげ図で表すことができる。 ・四分位範囲や箱ひげ図を用いてデータの分布の傾向を比較して読み取り、考察して判断することができる。

教科名	社会	週時間数	3 時間	学年	2 年
使用教科書 副教材等	教科書 中学生の地理（帝国書院） 新しい社会歴史（東京書籍） 中学校社会科地図（帝国書院）				

社会科 の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解する。 ・調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ・社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する。 ・課題の解決に向けて選択・判断し、説明したりすることを基に議論などをする力を養う。 ・よりよい社会の実現させるために、課題を主体的に解決しようとする態度を養う。 ・国民主権を担う公民として、自国の平和と繁栄を図り、他国や他国の文化を尊重する。
------------	---

評価について

観点	つけたい力	方法
知識・技能	<p>【地理的分野】 日本や世界の様々な地域の特徴や課題などの様子についての理解。グラフや表などの資料を読み取る力。考えたりまとめたりするための知識及びそれらをまとめて伝える技能。</p> <p>【歴史的分野】 世界の歴史を背景にした日本の歴史の大きな流れや、各時代の特色についての理解。資料から歴史に関する様々な情報を読み取る力。考えたりまとめたりするための知識及びそれらをまとめて伝える技能。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・期末テスト ・単元テスト
思考・判断・表現	<p>【地理的分野】 地理に関する事象について、人々の生活環境や自然環境、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、思考・判断したりする力。</p> <p>【歴史的分野】 歴史に関する事象について、人々の生活、現在とのつながり、伝統・文化の特色などに着目して、多面的・多角的に考察したり、思考・判断したりする力。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・期末テストでの文章問題 ・単元テストでの応用問題 ・ふりかえり
学習に主体的に取り組む態度	<p>【地理的分野】 世界や日本の社会の担い手の一人であることを認識し、よりよい社会の実現のために地理的事象から課題を見出し、主体的に解決しようとする態度。</p> <p>【歴史的分野】 国家や社会の担い手の一人であることを認識し、よりよい社会の実現のために歴史的事象から課題を見出し、主体的に解決しようとする態度。</p>	<p>知識・技能/思考・判断・表現を踏まえた上で次のことで評価します</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふりかえり ・授業における学習態度 ・単元テストでの記述問題
学習方法	<p>授業では教師の話をしっかりと聞き、分からないことなどは質問するなど、積極的に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒板に書かれたことは、ノートに写すようにする。 ・学習内容の理解が進むように、ノートの取り方を工夫する。 ・振り返りは、めあてを意識して、理解できしたことなどを読む人に伝わるように書く。 ・学習した内容は、ワークなどをを利用して定着するまで復習する。 ・単元テストやワークなどで、できなかつたところはできるようにする。分からないところは、教師に聞くなどして、分かるようにする。 	

学期	月	単元	学習内容	主な学習のめあて
1	4	【歴史的分野】 第4章 近世の日本 【地理的分野】 第3部 日本のさまざまな地域	オリエンテーション 2節 江戸幕府の成立と支配の仕組み 3節 産業の発達と幕府政治の動き	江戸時代の政策がなぜ 260 年続いたか理解することができる。 江戸時代に起きた改革や文化について理解することができる。
	5		1章 身近な地域の調査	地形図を読み取り、活用することができる。
	6		2章 日本の地域的特徴	日本の気候や人口の変化について理解し、自分の意見を持つことができる。
	7		3章 日本の諸地域 九州地方	九州地方の自然環境について理解し、考えを深めることができる。
2	9	3章 日本の諸地域 中国四国地方 近畿地方 中部地方 関東地方 東北地方 北海道地方 【歴史的分野】 第5章 開国と近代日本の歩み	3章 日本の諸地域 中国四国地方	中国四国地方の交通路の発展により起きたことを理解し、考えを深めることができる。
	10		近畿地方	近畿地方の産業の特徴について理解し、考えを深めることができる。
	11		中部地方	東海・北陸・中央高地の各地域を比較し、考えを深めることができる。
	12		関東地方	関東地方の過疎・過密地域について理解し、考えを深めることができる。
	11		東北地方	東北地方の食文化や祭りについて理解し、考えを深めることができる。
	12		北海道地方	北海道地方の人間と自然環境との相互依存関係について学び、考えを深めることができる。
3	1	2節 欧米の進出と日本の開国 3節 明治維新	1節 欧米における近代化の進展	欧米諸国が世界に先駆けて発展したことについて理解することができる。
	2		2節 欧米の進出と日本の開国	欧米とアジアンの関係が変化する中、江戸幕府が滅んだことについて理解することができる。
	3		3節 明治維新	他アジア諸国に先駆けて日本の近代化が進んだ理由について理解することができる。

教科名	英語	週時間数	4 時間	学年	2 年
使用教科書 副教材等	教科書 NEW HORIZON(東京書籍) 副教材 Together English(学宝社)				

英語科 の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用することができる。 ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝えあつたりすることができる。 ・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとすることができる。
------------	---

評価について

観点	つけたい力	方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の4技能(聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと)について、実際のコミュニケーションで活用できる知識や技能を身に着けている。 ・学習を通じて、言語の働きや役割などを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の活動の様子 ・ペアワークやグループワーク等の様子 ・単語、文法等授業中の課題 ・定期テスト、小テスト、単元テスト ・リスニング、長文読解等課題 ・パフォーマンステスト
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的で身近な話題について、互いの考え方や気持ちなどを適切に伝え合うことができる。 ・聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えを話したり書いたりして表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の活動の様子 ・ペアワークやグループワーク等の様子 ・定期テスト ・パフォーマンステスト
取り組む態度 に主体的に	<ul style="list-style-type: none"> ・他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。 ・言語やその背景にある文化に対する関心を持って、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の態度や活動の様子 ・ペアワークやグループワーク等の様子 ・パフォーマンステスト ・ワーク、プリント、振り返りシート、タブレット等提出物
学習方法	<p>«学校では»</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語は伝えようとすることが大切です。間違いを恐れず積極的に授業に取り組もう。 ・授業で習ったことを振り返りシートなどにわかりやすくまとめよう。 <p>«家庭では»</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書に出てくる新しい英単語などを予習しよう。 ・学校で学習したことをワークを使って復習しよう。 ・英語は繰り返し学習が大切です。単語や文法などは、書くこと・読むこと・聞くことを大切に繰り返し練習しよう。教科書のリスニング・音読は本文を暗記するつもりで定期的に行おう。 <p>«定期テストでは»</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験範囲中の単語や本文は、何度も繰り返し書いて覚えよう。ワークは何度も解きなおそう。 	

学期	月	単元	学習内容	主な学習のめあて
1	4	<Unit0>	・過去進行形、動詞の過去形 ・There is/are…	・思い出を伝えるために、これまでに学んだことを用いて、自分が経験したことを話すことができる。
	5	<Unit1>	・be going to / 助動詞 will ・SVOO / SVOC ・苦情や謝罪の表現	・旅行の楽しさと海外の文化や言語について考える。 ・休暇や週末の予定について、たずねたり伝えたりすることができる。
	6	・Let's Talk1 ・Let's Listen1		・場面に応じて、苦情を言ったり、それに対して謝ったりすることができる。 ・機内放送を聞き、必要な情報を聞き取ることができる。
	7	<Unit2> ・Let's Talk2 ・Let's Listen2	・接続詞 when、if、because、that ・許可・依頼を求める表現 ・インタビュー	・日本や外国の料理を知り、食文化の歴史や変化について考え、好きな食べ物やその理由について、紹介文を書くことができる。 ・場面や相手に応じて、丁寧に許可を求めたり、依頼したりすることができる。 ・インタビューを聞き、質問の内容や答えを聞き取ることができる。
	9	<Unit3> ・Let's Write1 ・Stage Activity1 ・Let's Read1 ・Let's Listen3	・不定詞（副詞・名詞・形容詞的用法） ・It is … + to ・留守番電話のメッセージへの返信 ・読み物を読む	・これから社会を想像し、自分の将来像や夢について考え、自分が体験したことや学んだことを尋ねたり伝えたりすることができる。 ・留守番電話のメッセージを聞いて、内容を理解し、相手に返信メールを書くことができる。 ・好き、得意なことを話し合い、自分に合う仕事について書くことができる。 ・説明文を読み、時計の歴史を読み取ったり、説明したりすることができる。 ・天気予報を聞き、必要な情報を聞き取ることができる。
	10	<Unit4> ・Let's Write2 ・Let's Listen4	・have to、do not have to ・助動詞 must、must not ・動名詞 ・ホームステイのお礼状 ・電車の運行情報	・日米の生活習慣や文化の違いを知り、ともに暮らすヒントを考え、習慣やマナーについて、たずねたり伝えたりすることができる。 ・お世話になった人に、手紙で感謝の気持ちを伝えることができる。 ・運行情報を聞き、必要な情報を聞き取ることができる。
	11	<Unit5> ・Let's Talk3 ・Let's Listen5	・疑問詞+to ・主語+be 動詞+形容詞+that ・ ・乗り物での行き方を尋ねる表現 ・留守番電話対応の表現	・誰もが使いやすいものや暮らしやすい社会について考え、身近なものについて、使い方を説明したり、自分の考えを述べたりすることができる。 ・乗り物での行き方をたずねたり、答えたりすることができる。 ・留守番電話を聞き、主な内容を理解することができる。
2	1	<Unit6>	・比較級 ・最上級 ・同格	・身近なトピックを通して、調査や発表の効果的なやり方について考え、特徴を比較しながら説明をすることができる。
	2	・Let's Talk4 ・Stage Activity2 ・Let's Read2 ・Let's Listen6	・買い物 ・調査と発表 ・読み物を読む ・商品のコマーシャル	・自分の好みや要望を伝えながら買い物をすることができる。 ・クラスで人気のあるものを調べて、その結果を発表することができる。 ・物語を読み、場面や登場人物の心情の変化を読み取ったり、気持ちをこめて音読したりすることができる。 ・商品のコマーシャルを聞き、商品の特徴を聞きとることができます。
	3	<Unit7> ・Let's talk5 ・Let's Listen7 ・Stage Activity3 ・Let's Read3	・受け身 ・電話でのやりとり ・店内のアナウンス ・おすすめの場所 ・読み物を読む	・世界遺産の特徴について知り、その特別な価値について考え、各地の世界遺産を紹介することができる。 ・自分の好みや要望を伝えながら電話で用件を伝えることができる。 ・店内のアナウンスを聞き、イベントなどの情報を聞き取ることができます。 ・自分のおすすめの場所について書き、相手にその場所の特徴や良い点を伝えることができる。 ・人物の伝記を読んで、時系列を整理しながら内容を理解することができる。

教科名	理科	週時間数	4 時間	学年	2 年
使用教科書 副教材等	教科書 「未来へひろがるサイエンス」 啓林館 副教材 「理科の自主学習」 新学社 「グラフィック理科資料集」 新学社 「カラープリント 確認から発展へ」				

理科 の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 ・自然の事物・現象について、自然に対する関心を高め、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行う。 ・自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究するために必要な資質・能力・態度を養う。
-----------	---

評価について

観点	つけたい力	方法
知識・技能	<p>身近な自然現象を日常生活や社会と関連付けながら自然の事物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解している とともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの 基本的な技能を身に付けています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元(評価)テスト ・定期テスト ・実技、作図テスト ・実験・観察の技能 ・授業プリント、振り返りの記述
思考・判断・表	<p>自然の事物・現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、規則性や関係性を見いだし、表現するなど、科学的に探究している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元(評価)テスト ・定期テスト ・実験・観察結果の考察 ・振り返りの記述 ・授業のようす
取り組む態度 に主体的に	<p>自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもって振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート、授業プリントの記述 ・ワークの取組状況 ・振り返りの記述 ・授業のようす
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した内容で疑問に思ったことや興味をもったことは、自分で調べてみましょう。 ・継続的な学習ができるように、自分で計画を立てて実行できるようにしましょう。 ・学校で学んだことを理科の自主学習や授業プリントで復習をすることで、確かな力にしましょう。 ・授業の中で出てきた重要語句で、理解できなかった部分は、教科書や資料集を活用しながら、知識として定着できるようにしよう ・授業の『めあて』や『ふり返り』を意識しながら、積極的に学習活動へ参加しましょう。 ・グループ活動には積極的に参加し、なかまの意見を聞いて自分の考えを深めましょう。 ・観察や実験では、目的や意図を考えながら取り組み、結果をわかりやすくまとめ、何がわかったかを自分の言葉で表現しましょう。 ・仲間の考えを尊重しあい、仲間の意見と自分の意見を比較して、科学的な見方や考え方を高めよう。 	

学期	月	単元	学習内容	主な学習のめあて
1	4	化学変化と原子・分子	物質のなりたちと化学変化	<ul style="list-style-type: none"> ・物質は原子や分子からできていることや、化学変化は原子や分子のモデルで説明できること、化合物の組成は化学式で表されることを理解する。
	5		さまざまな化学変化	<ul style="list-style-type: none"> ・原子や物質を記号やモデルで表すことができる。
	6		化学変化と物質の質量	<ul style="list-style-type: none"> ・分解、化合、還元等の実験を行い、生成した物質からもとの物質の成分が推定できることを見いだす。 ・化学変化をモデルで説明し、化学反応式で表すことができる。 ・実験器具の使い方や、結果の整理などの技能を身につける。 ・実験を通して、化学変化の前後では物質の質量の総和が等しいことを見出し、説明できる。
	7	生物の体のつくりとはたらき	生物の体をつくるもの	<ul style="list-style-type: none"> ・反応する物質の質量の間には一定の関係があることを見いだし、説明できる。 ・生物の体が細胞からできていること、および植物と動物の細胞のつくりの特徴を見いだし理解する。
	9		植物の体のつくりとはたらき	<ul style="list-style-type: none"> ・植物の体のつくりについて、光合成、呼吸、蒸散のはたらきに関する現象を関連づけて理解する。
	10	電流とその応用	動物の体のつくりとはたらき	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒトの体を例として、動物が生命を保つしくみについて理解し、説明できる。
	11		動物の行動のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> ・動物が外界の刺激に反応するしくみを、感覚器官、神経及び運動器官のつくりと関連づけて理解する。
2	9		電流の性質	<ul style="list-style-type: none"> ・電流にはどのような性質やはたらきがあるのか理解し、電圧と電流の関係について規則性を見いだす。
	10		電流の正体	<ul style="list-style-type: none"> ・実験機器の操作や実験結果の処理についての技能を身につける。
	11		電流と磁界	<ul style="list-style-type: none"> ・静電気の性質や静電気と電流の関係性を見いだす。 ・放射線にはどのような種類があるのか理解する。 ・日常生活と関連付けながら、電流と磁界にはどのような関係があるのか見いだし、説明できる。
	12			<ul style="list-style-type: none"> ・直流と交流の違いを理解し、説明できる。
3	1	地球の大気と天気の変化	地球をとり巻く大気のようす	<ul style="list-style-type: none"> ・気象要素の変化と天気の変化の関係を見いだし、説明できる。
	2		大気中の水の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・大気圧・圧力について、日常生活と関連づけて理解し、計算力を身につける。
	3		天気の変化と大気の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・霧や雲のでき方を、空気中の水の変化と関連づけて理解し、霧、雲、雨や雪はその循環の一部であることを認識する。 ・大気の動きと天気の変化との関連性を理解し、説明できる。
	4		大気の動きと日本の四季	<ul style="list-style-type: none"> ・日本付近の大気の移動と、それに伴う天気の変化を、地球規模の動きの一部として捉える。 ・日本の四季の天気変化は、気団の動きと関連づけながら、どのようなしくみで起こるのかを理解し、説明できる。

教科名	保健体育	週時間数	3 時間	学年	2 年
使用教科書 副教材等	教科書「中学保健体育」Gakken 副教材「中学保健ノート」正進社				

保健体育 科の目標	<ul style="list-style-type: none"> 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようとする。 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。
--------------	--

評価について

観点	つけたい力	方法
知識・技能	<p>【体育分野】 各運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、伝統的な考え方、各領域に関連して高まる体力、健康・安全の留意点についての具体的な方法及び運動やスポーツの多様性、運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方についての考え方を理解しているとともに、各領域の運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けることができる。</p> <p>【保健分野】 健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境について、個人生活を中心として科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 定期テスト 実技テスト 学習カード
思考・判断・表現	<p>【体育分野】 各運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、伝統的な考え方、各領域に関連して高まる体力、健康・安全の留意点についての具体的な方法及び運動やスポーツの多様性、運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方についての考え方を理解しているとともに、各領域の運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けることができる。</p> <p>【保健分野】 健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境について、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 定期テスト 学習カード 観察
取り組む態度	<p>【体育分野】 運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正、協力、責任、共生などに対する意欲をもち、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている。</p> <p>【保健分野】 健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 定期テスト 実技テスト 学習カード 観察
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> 準備運動では集団行動をキビキビおこない発声も大切にできる。列を揃え、背筋を伸ばしランニングをする。また、ストレッチ体操では元気よく発声し、ポイントを理解して取り組む。 普段の授業では、めあてを理解し取り組むことができる。また、ふりかえりではめあてに対して自分の考えを学習カードに記述する。 実技テストでは、課題に応じて自分の力を発揮する。 定期テスト前には、保健分野・体育分野ともに復習する習慣をつける。 毎回の授業で、意欲をもって保健体育に親しむように心がける。 	

学期	月	単元	学習内容	主な学習のめあて
1	4	○体育理論 ○体つくり運動	・オリエンテーション ・集団行動 ・新体力テスト	・運動やスポーツが心身の発達に与える効果、健康・安全について理解することができる。 ・集団としての活動の進め方や動きを理解することができる。 ・今の自分の体力の実態を知り、課題を見つけ、体力を高めるための運動や練習の仕方を考えることができる。 ・自分や集団に適した課題を見つけ、解決に向けて、仲間と協力して、技能を習得し、仲間と連携した動きで攻防ができる。 ・フェアなプレイを守ろうとしたり、分担した役割を果たそうとしたりすることができる。 ・自主的に取り組むとともに、ルールやマナーを大切にすることができる。 ・自分に適した課題を見つけ、解決に向けて練習を工夫して行い、技能の習得・向上、記録の向上を目指す。
	5	○球技 ○陸上競技	・バレー・ボール ・短距離走（リレー） ・走り幅跳び	・「食」に関する知識を身につけ、選択する力を養うことができる。 ・生活習慣病について理解し、予防方法を考え理解することができる。 ・喫煙・飲酒の健康への影響について理解することができる。 ・薬物乱用の健康への影響について理解することができる。 ・喫煙・飲酒・薬物乱用のきっかけについて理解し、防止するための対策について、考え理解することができる。
	6			
	7	●食育 ●健康な生活と病気の予防②	・食育 ・生活習慣病とその予防 ・がんとその予防 ・喫煙と健康 ・飲酒と健康 ・薬物乱用と健康 ・喫煙・飲酒・薬物乱用のきっかけ	・「食」に関する知識を身につけ、選択する力を養うことができる。 ・生活習慣病について理解し、予防方法を考え理解することができる。 ・喫煙・飲酒の健康への影響について理解することができる。 ・薬物乱用の健康への影響について理解することができる。 ・喫煙・飲酒・薬物乱用のきっかけについて理解し、防止するための対策について、考え理解することができる。
	9	○体つくり運動 ○球技	・体つくり運動 ・ソフトボール	・自分や集団に適した課題を見つけ、解決に向けて、仲間と協力して体力の向上を目指す。 ・競争する楽しさや仲間と協力する大切さに気づくことができる。 ・自分や集団に適した課題を見つけ、解決に向けて、仲間と協力して、技能を習得し、仲間と連携した動きで攻防ができる。 ・フェアプレイを守ろうとしたり、分担した役割を果たそうとしたりする。
	10	○器械運動	・跳び箱 (マット運動)	・自分に適した課題を見つけ、解決に向けて練習を工夫して行い、技能の習得・向上を目指す。
	11	○陸上競技	・長距離走（持久走）	・積極的に取り組むとともに、よい演技を認めようとすることができる。
2	12	●食育 ●傷害の防止	・食育 ・傷害の原因と防止 ・交通事故の現状と原因 ・交通事故の防止 ・犯罪被害の防止 ・自然災害に備えて ・応急手当の意義と基本 ・心肺蘇生法 ・きずの手当	・自分に適した目標を設定し、自分に合ったペースを守り一定の距離を走ることができます。 ・「食」に関する知識を身につけ、選択する力を養うことができる。 ・傷害の原因や防止の方法を考え理解することができる。 ・交通事故の現状や原因について、理解することができる。 ・交通事故の防止するための対策について、考え理解することができる。 ・犯罪被害を防止するためにはどうすれば良いか理解できる。 ・自然災害による被害について理解し、被害防止や災害発生時の適切な行動について、考え理解することができる。 ・応急処置の方法について理解することができる。 ・心肺蘇生について、実習を通して理解することができる。 ・きずの手当について、実習を通して理解することができる。
	1	○陸上競技	・長距離走（持久走）	・自分に適した目標を設定し、自分に合ったペースを守り一定の距離を走ることができます。
	2	○球技	・サッカー	・自分や集団に適した課題を見つけ、解決に向けて、仲間と協力して、技能を習得し、仲間と連携した動きで攻防ができる。 ・フェアなプレイを守ろうとしたり、分担した役割を果たそうとしたりする。
	3	●食育 ●スポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方	・食育 ・スポーツが心身と社会性に及ぼす効果 ・スポーツの学び方 ・スポーツの安全な行い方	・「食」に関する知識を身につけ、選択する力を養うことができる。 ・スポーツが心身と社会性に及ぼす効果、スポーツの学び方、スポーツの安全な行い方について理解することができる。 ・スポーツでは何をどのようにして学ぶとよいか理解できる。 ・安全にスポーツを行うには、どんなことに留意する不必要があるか理解できる。

教科名	音楽	週時間数	1時間	学年	2年
使用教科書 副教材等	教科書 中学生の音楽2・3上 (教育芸術社) 副教材 中学生の器楽 (教育芸術社)				

音楽科 の目標	・曲想と音楽の構造や背景などの関わりおよび音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。
	・曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようとする。 ・主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養う。

評価について

観点	つけたい力	方法
知識・技能	曲想と音楽の構造や背景などの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようとする。	・筆記テスト ・実技テスト ・鑑賞
思考・判断・表現	曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようとする。	・筆記テストでの文章問題 ・実技テストでの創意工夫点 ・ふりかえり
取り組む態度	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、親しんでいく態度を養う。	・ふりかえり ・授業における学習態度 ・実技テスト ・筆記テスト
学習方法	・歌唱活動では、まずは自信をもって歌えるようになろう。その後、周りの音を聞いて音楽を楽しめるようになろう。 ・実技テストでは、大きな声で歌ってみよう。また、創意工夫したり、強弱記号をつけたりして歌えるようになろう。 ・授業でのワークシートを積極的に取り組もう。また、筆記テスト前に復習する習慣をつけよう。 ・鑑賞では、言葉で説明したり、根拠をもって評価したりして取り組むようになろう。 ・毎回のふりかえりの中では、めあてに対して自分の思いを書けるように意識しよう。 ・毎回の授業で、意欲をもって音楽を楽しむように心がけよう。	

学期	月	単元	学習内容	主な学習のめあて
1	4	歌唱活動	オリエンテーション 「翼をください」「夢の世界を」	・美しい歌声で歌うための姿勢をとることができる。 ・曲の雰囲気に合った明るい声で歌うことができる。 ・合唱の響きを感じ合いながら歌うことができる。 ・曲の強弱を意識して歌うことができる。
	5	楽典	「反復記号」	・反復記号について理解することができる。
	6	歌唱活動	「夏の思い出」	・自身をもって堂々と歌うことができる。 ・曲の情景を浮かべながら歌うことができる。
	6	鑑賞	「交響曲第5番 運命」	・曲の構成を感じながら鑑賞することができる。
	7	実技テスト	「夢の世界を」	・音程を取って歌うことができる。 ・曲に合った強弱・構成などを理解して表現することができる。
	7	筆記テスト	期末テスト	
	7	歌唱活動	「明日という日が」	・合唱の響きを感じ合いながら歌うことができる。
2	9	歌唱活動	「明日という日が」	・自身をもって歌うことができる。
	10		文化祭に向けて	・曲に合った強弱を意識して歌うことができる。 ・休符や音符の長さを意識して歌うことができる。 ・他のパートとの響きを味わって歌うことができる。 ・歌詞に合った表現を考えて歌うことができる。 ・よりよい合唱にするために自分の意見を他の人に共有することができる。
	11		「夏の日の贈りもの」	・合唱の響きや曲の雰囲気を味わいながら歌うことができる。
	11	鑑賞	「日本の祭り」	・日本特有の音楽や文化を味わって聴こう。
	12	実技テスト	「明日という日が」	・音程を取って歌うことができる。
	12	筆記テスト	期末テスト	・曲に合った強弱・構成などを理解して表現することができる。
	12	楽典	「和音と音程」	・和音やコードネームを理解することができる。
3	1	歌唱活動	「卒業式の練習」	・合唱の響きを感じ合いながら歌うことができる。 ・別れの思いを込めて歌うことができる。
	2		「サンタルチア」	・イタリア語の曲の特徴を理解して歌うことができる。
	2	鑑賞	「弦楽器」	・弦楽器の音や楽器の特徴を見つけることができる。
	3	実技活動	「箏」	・箏の特徴を理解して、演奏することができる。
	3	筆記テスト	期末テスト	
	3	歌唱活動	「島唄」	・音の重なりを理解して歌うことができる。
	3	楽典	音階	・日本の音階について理解することができる。

教科名	技術	週時間数	1時間	学年	2年
使用教科書 副教材等	教科書「NEW 技術・家庭 技術分野 明日を創造する」教育図書 副教材「NEW 技術・家庭 技術分野 ワークノート」教育図書				

技術科 の目標	<ul style="list-style-type: none"> 製作に使用する工具や機械の使用法及び、製作品の部品加工及び組み立て、仕上げができること。 エネルギーの変換を利用した製作品のエネルギーの変換方法や力の伝達のしくみを知り、適切な機構や電気回路を選択して設計・製作ができる。 製作に使用する工具や機器の種類や用途、使用方法を知り安全に使用することができる。 製作において使用する機器について、しくみや電気回路について知り、用途や性能と各部の働きとの関係を理解し、機器の保守点検と漏電、感電などの事故防止ができる。 適切なプログラムの制作、動作およびデバッグ等ができる技能を身につけている。
------------	---

評価について

観点	つけたい力	方法
知識・技能	生活と技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> 実技テスト 定期テスト
思考・判断・表現	生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> 授業プリントの記述 授業の振り返り 定期テスト 実技テスト
取り組む態度	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> 授業の振り返り 授業態度 定期テスト 実技テスト ワーク、プリントなどの提出物
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に制作に取り組み、自分を表現しよう。 自ら考え、仲間の意見をよく聞き、考えを深めることを心がけよう。 作業の準備、後片づけがしっかりできるようにしよう。 授業中は私語を慎み根気よく制作に集中しよう。 提出物は、期日を守って必ず提出しよう。 実技テストは、授業内で言った注意点やポイントを意識して行うようにしよう。 定期テストで点が取れるようにワーク、配布プリントは何度もやり直そう。 	

学期	月	単元	学習内容	主な学習のめあて
1	4	生物育成の技術	栽培	<ul style="list-style-type: none"> ・作物の成長に必要な要素を理解する。 ・しっかりと世話をして作物を栽培する
	5	エネルギー変換の技術	わたしたちの生活とエネルギー 電気エネルギーの変換と利用	<ul style="list-style-type: none"> ・自然界のエネルギー資源の活用について理解する。 ・それぞれの発電の持つ問題点を考える。 ・今後のエネルギー問題について考える。 ・電気の持っている特徴について理解する。 ・電気エネルギーを他のエネルギーに変換する方法を知る。 ・回路図に使用される基本的な記号を知る。
	6			
	7			
2	9	エネルギー変換の技術	製作の準備	<ul style="list-style-type: none"> ・製作の工程表を作成する。 ・ニッパやラジオペンチ, はんだごての使用方法を実習を通して理解する。 ・安全で適切な使用法を理解する。 ・工具や機器の取り扱いでは, 安全な作業を徹底する。 ・合理的な組み立て手順を考える。 ・組み立て後の検査と修正を行う。
	10		工具の使用	
	11		部品加工	
	12		組み立て	
3	1	エネルギー変換の技術	製品の仕上げ	
	2	材料と加工の技術	コンピュータの構成を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの構成機器を知る。 ・プログラミングの基礎を理解する。
	3		プログラミング	<ul style="list-style-type: none"> ・安全・適切にプログラムの制作、動作の確認及びデバッグができる。

教科名	家庭	週時間数	1 時間	学年	2 年
使用教科書 副教材等	教科書 副教材	技術・家庭 家庭分野 教育図書 技術・家庭分野 ワークノート 教育図書			

家庭科 の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・作品を制作したり、調理実習などの体験的な活動を通して、生活の自立に必要な衣食住に関する基礎的な知識と技術を習得する。 ・生活を工夫し、創造する能力を身につける。
------------	--

評価について

観点	つけたい力	方法
知識 ・ 技能	生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技術を身に付けるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・授業プリントやノートの記述 ・授業中の発言、観察 ・調理実習や裁縫等の実技
思考 ・ 判断 ・ 表現	生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、問題を解決する力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート、授業プリントの記述 ・授業中の発言、観察 ・ワークの記述（深めよう） (授業・単元のふりかえり) ・定期テスト
取り組む態度 に 学習主 体的的	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の発言、観察 ・プリント等の記述 ・ふりかえり
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中は私語を慎み授業に集中し取り組もう。 ・ハンドノートを中心に学習しよう。 ・提出物は、期日を守って必ず提出しよう。 ・実技テストは、授業内で言った注意点やポイントを意識して行うようにしよう。 ・定期テストで点が取れるようにワーク、配布プリントは何度もやり直そう。 	

学期	月	単元	学習内容	主な学習のめあて
1	4	私たちの衣生活 生活を豊かにする製作	衣服の働きを考える	・衣服の基本的な働きを理解する。
	5		目的に合わせて自分らしく着る 衣服を計画的に活用できるよう になる	・TPOを踏まえた自分らしい着方を考えることができる。
	6		自分に合った衣服を手に入れる 布を使ってつくってみる	・日本の伝統的な衣服である和服について理解する。
	7		被服実習	・衣服の計画的な活用について考えることができる。 ・日本の伝統的な衣服である和服について理解する。 ・衣服を適切に選択するためのポイントを理解する。 ・衣服の表示から情報を読み取り、活用することができる。 ・制作に必要な材料や道具を安全で効率的に使うことができる。 ・生活を豊かにするものを考え、制作の計画を立てることができる
	9		衣服の手入れをする	・衣服の材料や状態に合わせた手入れの方法を理解する。
	10		調理実習 住まいの働きを知る	・衣類の材料や状態に応じた洗濯や補修などができる。 ・住まいの基本的な働きを理解する。
	11		家族が暮らしやすい住まい方を 考える	・住まいの基本的な働きを理解する。 ・生活行為と住まいの空間の関係について考える。 ・家族にはそれぞれ住まい方への思いや願いがあることに気づく。
2	12	私たちの住生活 家族が暮らしやすい住まい方を 考える 健康を守る室内環境の整え方を 考える 調理実習 家庭内事故から家族を守る	健康を守る室内環境の整え方を 考える	・家族が気持ちよく住まうための工夫を考える。 ・室内の空気を清潔に保つ必要があることを理解する。
	9		調理実習	・健康を守る室内環境の整え方を考える。 ・野菜の調理上の性質を知り、工夫して野菜を調理することができる。
	10		家庭内事故から家族を守る	・住まいの中には危険がたくさんあることを理解する。 ・家庭内事故を防ぐための工夫や対策を考える。
	11			
	12			
3	1	わたしたちの消費生活	災害に備えた安全な住まい方を考 える	・自然災害に備えた安全な住まいの整え方を理解する。 ・自然災害への備え・対策を考える。
	2		消費者トラブルを防ぐ 消費者を支える仕組みを知る	・事業者と消費者には情報量や交渉力に格差があることを理解する。 ・中学生に身近な消費トラブルについて理解する。
	3			・消費者を守る法律や制度を理解する。 ・消費者トラブルの解決方法と、解決のための行動の意味を理解する。

教科名	美術	週時間数	1 時間	学年	2 年
使用教科書 副教材等	教科書「美術2・3」光村図書 副教材 「美術資料」秀学社				

美術科 の目標	<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表すことができるようとする。 自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようとする。 主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく態度を養う。
------------	---

評価について

※ 美術は、制作が長期間に渡るものがあり、各学期の成績は、題材の時間・内容などを考慮して、評価します。また、長期間に渡る題材の制作終了と、各学期の評価のタイミングが合わないため、学年末の成績は、単純に各学期の成績を平均したものとはなりません。1年間の学習活動を俯瞰し、題材の時間・内容・学習の深まりなどを考慮して、評価します。

観点	つけたい力	方法
知識・技能	感性や造形感覚などを働かせて、材料や用具の特性を生かし、表現の意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序などを総合的に考えたりするなどし、創意工夫して創造的に表す力。	<ul style="list-style-type: none"> 作品、エスキース、アイディアスケッチ、及び振り返りプリントなどから、いかに自分の表現を追求しているかを読み取り評価する。 授業の様子を観察して、評価する。
思考・判断・表現	<p>感性や想像力を働かせて、対象を深く見つめ、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に独創的で豊かな発想をし、形や色彩の構成などの効果を生かし、心豊かで独創的な表現の構想を練る力</p> <p>感性や想像力を働かせて、造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わったり、生活を美しく豊かにする美術の働きや美術文化などについての理解や見方を深めたりする力。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 作品、エスキース、アイディアスケッチ、及び振り返りプリントなどから、アイディアをいかに構築しているかを読み取り、評価する。 鑑賞プリントから、自分の見方や感じ方を大切にして、いかに作品を味わっているかを読み取り評価する。 授業の様子を観察して、評価する。
取り組む態度 学習に主体的に	美術の創造活動の喜びを味わい、表現や鑑賞の能力を身につけるために、主体的に学習に取り組もうとする力。	<ul style="list-style-type: none"> 作品、エスキース、アイディアスケッチ、鑑賞プリント、及び振り返りプリントから、取組の質を読み取り評価する。 授業の様子を観察して、評価する。
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に制作に取り組み、独自性を大切にしながら、こだわりをもって自分の表現を追求しよう。 チャイム着席、作業の準備、後片づけがしっかりできるようにしよう。 授業中は私語を慎み、根気よく制作に集中しよう。 制作に必要な資料や材料を準備し、制作に生かすことが出来るようにしよう。 芸術や美術に興味を持ち、芸術作品を見る機会を持とう。 提出物は、期日を守って必ず提出しよう。 	

学期	月	単元	学習内容	主な学習のめあて
1	4	アートゲーム	アートかるた オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・アートゲームを楽しみながら、美術作品の様々な見方を体験する。 ・美術の授業で学ぶことや準備すること、ルールなどについてしっかりと理解する
	5	構成	美術の自己紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・美意識を働かせながら自分の思いにあった表現の構想をする力を育てる。 ・自分なりの造形感覚を生かし、美しく創造的に表現する力を育てる。 ・自分を美しく紹介することを楽しみ、喜びをもって積極的に表現する態度を育てる。
	6	太陽のイメージ1	アイディアスケッチ	<ul style="list-style-type: none"> ・短時間のアイディアスケッチを返し、たくさんのアイディアの種を撒く方法を身に着ける。 ・太陽のエネルギーや美しさなどを感じとったり想像したりすることを楽しみ、喜びをもって積極的に表現する態度を育てる。
	7			
2	9	太陽のイメージ1	エスキース (デザイン)	<ul style="list-style-type: none"> ・アイディアスケッチを基に、さまざまな技能や造形感覚を生かし、こだわりをもって美しく創造的に表現する力を育てる。 ・たくさんのアイディアの種を基に主題を決め、想像力を働かせて自分の思いにあった表現の構想をする力を育てる。 ・太陽のエネルギーや美しさなどを感じとったり想像したりすることを楽しみ、喜びをもって積極的に表現する態度を育てる。
	10			
	11		水彩画	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽のエネルギーや美しさなどを感じとったり想像したりすることを楽しみ、喜びをもって積極的に表現する態度を育てる。 ・感じとったことなどを基に主題を決め、想像力を働かせて自分の思いにあった表現の構想をする力を育てる。
	12			<ul style="list-style-type: none"> ・観察したことやイメージを基にスケッチなどを繰り返し、さまざまな技能や造形感覚を生かし、こだわりをもって美しく創造的に表現する力を育てる。 ・自身の活動を的確に検証すると共に、自他の作品を鑑賞し、よさや美しさを感じとり味わう力を育てる。
3	1	太陽のイメージ2	色見本帳づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が表したい感じを鉛筆などのモノクロ素材でどのように表すかを工夫して描き、スケッチの基本技能を育てる。 ・対象から感じとったことや思いにあったイメージから感性豊かな発想をしきたちや色・素材感などを工夫して、美しく独創的な表現の構想をする力を育てる。 ・自分だけの表現を生み出し、こだわりをもって追求することに積極的に取り組む力を育てる。
	2			
	3	アートゲーム	○×クイズ	<ul style="list-style-type: none"> ・美術作品や文化遺産としての絵画や彫刻などに親しみ、それらを理解すると共に、自分の味わい方を大切にして主体的に感じとったり、味わったりする力を育てる。 ・解答を考えながら、対象のよさや美しさなどを感じとったり想像したりすることを楽しみ、喜びをもって積極的に鑑賞する態度を育てる